② 中日本高速道路株式会社が別に定める共同企業体協定書（甲）による協定書（案）が提出されていること。
③ 特定建設工事共同企業体（甲型）で申請する場合の各構成員の出資比率は、２者で構成される場合にあっては30％以上、３者で構成される場合にあっては20％以上であることとし、代表者の出資比率は構成員中最大であること。
⑺ 本工事に係る設計業務等の受注者又は当該受注者と資本又は人事面において関連がある建設業者でないこと。
⑻ 警察当局から、暴力団員等が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、公共工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
⑼ 以下に定める届出をしていない建設業者（当該届出の義務がない者を除く。）でないこと。
① 健康保険法（大正11年法律第70号）第48条の規定による届出
② 厚生年金保険法（昭和29年法律第115号）第27条の規定による届出
③ 雇用保険法（昭和49年法律第116号）第７条の規定による届出

3　総合評価落札方式に関する事項
⑴ 総合評価落札方式の仕組み　本工事の総合評価落札方式は、競争参加申請者から申請時に、競争参加資格確認資料の提出に併せて総合評価技術提案資料の提出をうけ、当該資料に記載された技術提案の評価による技術評価点と入札書の価格により算出される価格評価点とを加味した総合評価点が最も高い者を落札者とする総合評価落札方式である。また、技術提案が採用されなかった場合は、入札を辞退することができる。その概要を以下に示すが、提案する要件及び入札時の評価に関する具体的基準については、入札説明書による。
⑵ 技術提案に関する事項　技術提案にあっては、施工方法及び仮設備計画に関する変更提案は可能とするが、工事目的物の変更を伴う提案やプレキャスト製品の採用など契約単価項目で支払うことが出来ない変更提案は不採用とする。下記⑷④の技術提案について、提案内容の実施可否については、詳細設計段階において検討を行い決定するので、工費の算出に提案内容を含めてはならない。
　また、評価項目①～③において提案した内容の履行が不可能となる提案は不採用とする。
⑶ 技術提案書の記載に関する事項
① 技術提案は、入札価格の範囲内で無理なく実現できることが前提であり、過度なコスト負担を要する「過度な技術提案」と発注者が判断した場合には、不採用とする場合がある。本工事における「過度な技術提案」の例としては、下記の事例を想定している。
・技術提案の実施において第三者との協議が必要な提案
・コンクリートの配合の変更及び混和剤の添加等が伴う材料の変更についての提案
・コンクリート表面保護工として含浸材などを塗布する提案
・ＰＣ鋼材や鉄筋・クラック防止シート等を追加配置する提案
・エポキシ鉄筋やステンレス筋などに変更する提案
・交通保安要員を追加配置する提案
② 技術提案が１提案もない場合は、標準案での施工も可とする。この場合、技術提案の評価は下記⑷ ２）に記載する「可」と評価する。
③ 総合評価技術提案資料は以下の事項に留意し、文字サイズ10ポイント以上で簡素かつ要領よく記述するものとする。
・下記⑷に記載する評価項目①～④に対する技術提案数は、それぞれ最大３提案までとする。
・評価項目毎にＡ４サイズ１ページ以内に収めるものとする。
　なお、様式に従い技術提案の説明用資料を添付できる。
・１ページに記載できる行数は、最大42行とする。
・１つの技術提案の内容に関し記載できる行数は、最大２行とする。
・１行あたりに記載できる文字数は、最大48文字とする。
④ 以下の場合は、該当する評価項目に関する全ての技術提案を不採用とする。
・技術提案数が３提案を超える場合
・１つの評価項目が１ページを超える場合
・１ページに記載された行数が、42行を超える場合
⑤ 以下の場合は、該当する技術提案を不採用とする。
・１つの技術提案の内容に関し記載された行数が、２行を超える場合
・１行あたりに記載された文字数が、48文字を超える場合
⑥ 以下の場合は、該当する技術提案を減点の対象とする場合がある。
・技術提案の内容に目的、実施する内容又は施工箇所が具体的に記載されていない場合
⑷ 評価項目及び評価指標　評価項目及び評価指標は下記のとおりとし、各評価項目に対する提案の有効性について、評価指標をもとに相対的に評価する。
１）評価項目
工事目的物の性能・機能に関する事項
① プレキャストPC床版及びプレキャスト壁高欄の製作から輸送段階までの品質管理　共通仕様書、施工管理要領及び設計図書に示す標準案と比較して、提案を下記の評価指標をもとに、提案者の優劣を相対的に評価
社会的要請に関する事項
② 高所作業における更なる安全対策（鉄道交差箇所を除く。）　共通仕様書及び設計図書に示す標準案と比較して、提案を下記の評価指標をもとに、提案者の優劣を相対的に評価
③ 対面交通規制時での輻輳する現場内作業の安全対策
共通仕様書及び設計図書に示す標準案と比較して、提案を下記の評価指標をもとに、提案者の優劣を相対的に評価
④ 詳細設計において検討を行う対面交通規制期間の短縮が期待できる検討事項の提案　共通仕様書及び設計図書に示す標準案と比較して、提案を下記の評価指標をもとに、提案者の優劣を相対的に評価
２）評価指標　共通仕様書、施工管理要領及び設計図書に示す標準案と比較して、下記の通り評価する。
優　標準案に比べ、非常に優れているもの。
良上　良に比べ、やや優れているもの。
良　標準案に比べ、優れているもの。
良下　標準案に比べ、やや優れているもの
可　標準案又は標準案と同等であるもの。
⑸ 技術評価点の付与方法　評価項目の項目別配点は、評価指標により優／良上／良／良下／可を判定し、判定結果に応じ次のとおり付与する。
品質管理
① プレキャストPC床版及びプレキャスト壁高欄の製作から輸送段階までの品質管理
・技術評価点　(30点)　優30点・良上22.5点・良15点・良下7.5点・可０点
安全対策
② 高所作業における更なる安全対策（鉄道交差箇所を除く。）
・技術評価点　(30点)　優30点・良上22.5点・良15点・良下7.5点・可０点
③ 対面交通規制時での輻輳する現場内作業の安全対策
・技術評価点　(30点)　優30点・良上22.5点・良15点・良下7.5点・可０点
工程管理
④ 詳細設計において検討を行う対面交通規制期間の短縮が期待できる検討事項の提案
・技術評価点　(10点)　優10点・良上7.5点・良５点・良下2.5点・可０点
⑹ 落札者の決定方法　総合評価提案資料に記載された内容の評価による技術評価点に係数αを乗じた値と契約制限価格の範囲内にある入札書の価格により算定される価格評価点に0.5を乗じた値とを加算した総合評価点の最も高い者を落札者とする。総合評価点数の算出方法は、以下のとおりとする。
① 総合評価点：(技術評価点×α)＋(価格評価点×0.5)　αの値は「0.2」とする。
② 技術評価点：各評価項目における項目別配点の合計点(満点100点)
③ 価格評価点：０（０≦Ｐ＜0.5Ｌ）
((Ｐ／Ｌ×100）－50)／(Ｘ／Ｌ－0.5)
(0.5Ｌ≦Ｐ＜Ｓ)
100―200（Ｐ／Ｌ－Ｘ／Ｌ)(Ｓ≦Ｐ≦1.0Ｌ)
　ここに、Ｐ　入札書に記載の価格（入札価格）
Ｌ　契約制限価格
Ｘ　調査基準価格以上の最低入札価格
Ｓ　調査基準価格
　ただし、入札価格が全て調査基準価格を下回る場合は、Ｘ／ＬをＳ／Ｌとする。